



▲黒田さんの弟さんは初心者ながら4キロジャストを釣り上げた



▲死にエサを使うと食い込みが早いのか、アタリと同時に竿が突っ込むことが多かった



●慎重にヤリトリして3.5キロを上げた鹿野さん



▲胸の間で2.2キロを上げた飯塚さん



●筆者も3.4キロをゲット



▲ゲストで釣れるメバルやソイも良型ぞろい



▲途中からスロジギにチェンジして2キロと1キロを釣った差菜さん

●当日最大6キロジャストを本誌レポーターの黒田さんがキャッチ



●目下のポイントは魚礁周り。底から3メートルのタナでヒット

# FUKUSHIMA YOTSUKURA 大鯰

## 福島県四倉港出船 計り知れないポテンシャル 四倉沖の大判ヒラメに挑む

撮影◎椎名 義徳

●釣り場は港から航程10～30分ほどの四倉～広野沖、水深は23～40メートル前後



▲当日は20センチ前後のマイワシを持参した人が多かった



▲仕掛けは大型に備えてハリス8号がおすすり、使用オモリ90号



福島県四倉沖のヒラメ五目が開幕した。当地のヒラメの特徴はなんといっても型のよさで、3キロ前後をアベレージに4～6キロ級を交えつつ、8キロオーバーのビッグサイズも顔を出す。そんな大判ヒラメがいい日はトップ10枚前後も釣れるのだから、釣り場のポテンシャルの高さは計り知れない。

7月中旬に取材した四倉港・弘明丸のヒラメ五目船は、出船後、サビキ仕掛けてイワシやアジなどの

小魚を釣ってエサにするスタイル。しかし、取材した時点では、まだベイトの群れが回ってきていないとのこと、当日は各自持参した冷凍イワシなどを使った。

冷凍イワシでヒラメが釣れるの？と思う方もいるだろうが、結果はご覧のとおり。最大6キロを筆頭に2～4キロ級が船内各所で取り込まれ評判どおりの型のよさを見せつけた。

「四倉のヒラメは食いが立てば、生きエサも冷凍エサも関係なく食ってきます。ベイトが回ってくればヒラメの活性も上がるので今後が楽しみです」と常連客は8月以降の本番へ向け期待を寄せる。

車なら三郷インターから常磐自動車道で約2時間半。夏休みにちょっと足をのばして、四倉の大判ヒラメにいざチャレンジ！  
(詳細は54ページ参照)

●福島県四倉港 弘明丸・佐藤 芳紀船長

